

2024(令和6)年度 活動報告

- 2024(令和6)年度 事業項目別活動報告

- 各課の活動報告

基幹センター 地域支援課

石巻地域センター 地域支援課

気仙沼地域センター 地域支援課

「伝承」に向けた取り組み

- 他誌掲載原稿

2024(令和6)年度 事業項目別活動報告

2024(令和6)年度のみやぎ心のケアセンターが実施した地域住民支援、支援者支援、普及啓発などの事業実績について、各項目別に報告する。

1. 2024年度の実績・全体数(表1)

表1 所属ごとの活動件数

	各地域センター地域支援課			基幹C 管理職	サポーターズ他	合計
	気仙沼	石巻	基幹			
地域住民支援	767	127	109	1	0	1,004
支援者支援	8	130	8	1	0	147
普及啓発	70	13	24	19	0	126
各種活動支援	0	0	0	0	0	0
会議連絡調整	140	160	163	15	0	478

2. 事業項目別

(1) 地域住民支援(表2)(表3)

表2 支援方法別対応延べ人数(手紙を除く; N=1,002)

支援方法	人数
訪問による相談	69
来所による相談(相談窓口などでの対応を含む)	356
電話による相談	571
集団活動の中での相談	0
ケース会議(対象者出席の場合)	5
受診同行	1
その他	0
計	1,002

表3 当センター初回支援時の経路(複数選択; N=55)

相談経路	人数
健康調査・全戸訪問	0
行政機関から	0
本人から	27
家族・親族から	4
サポートセンター・仮設支援員から	0
医療・福祉機関から	0
その他(近隣住民、職場、不明、その他)	24

①支援対象者について

a. 性別、年齢および就労状況（図1）

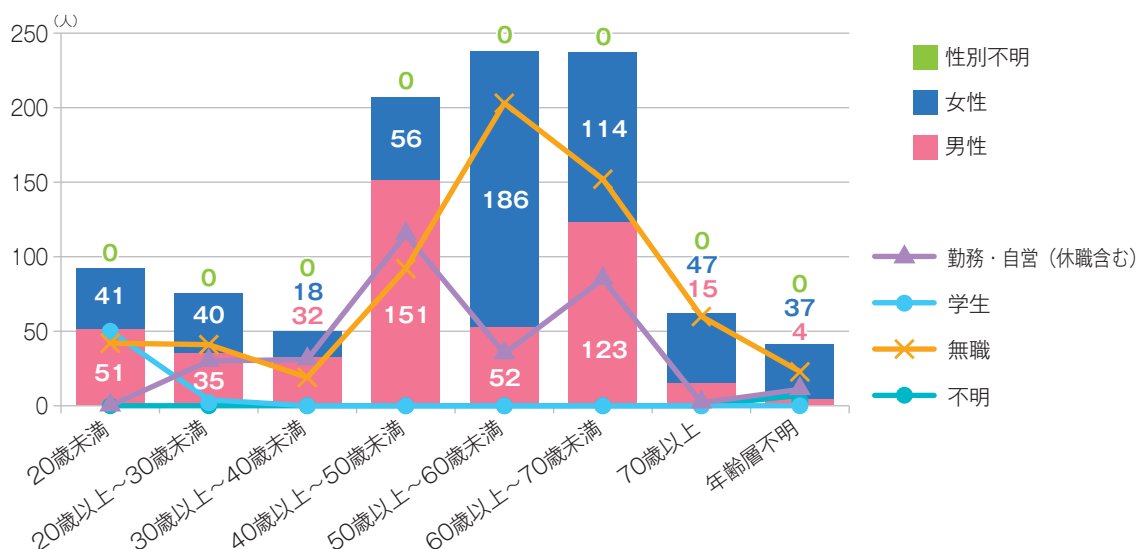


図1 性別・年齢階層別支援対象者数（延べ人数；N=1,002）

b. 被災状況

死別の状況と対象者（図2・3）、負傷状況（図4・5）、住宅被害（図6・7）

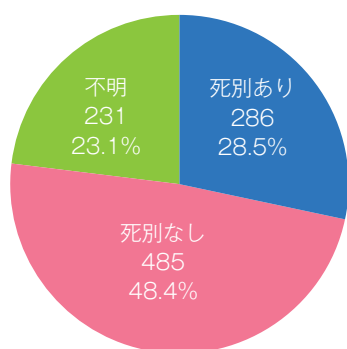


図2 死別の状況
（延べ人数；N=1,002）

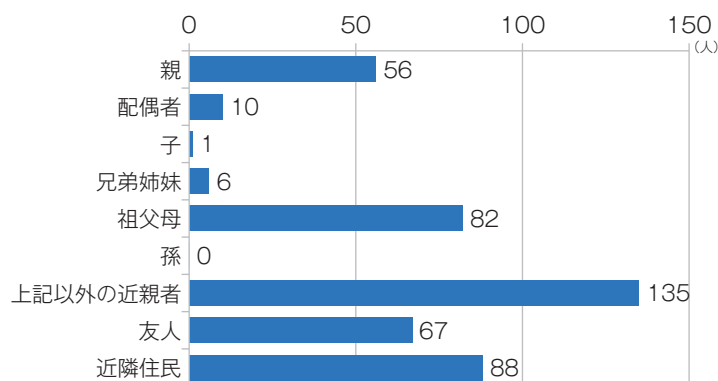


図3 死別の詳細（延べ人数、複数選択；N=286）

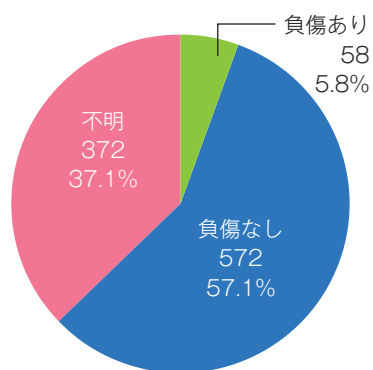


図4 本人または近親者の負傷の有無
（延べ人数；N=1,002）

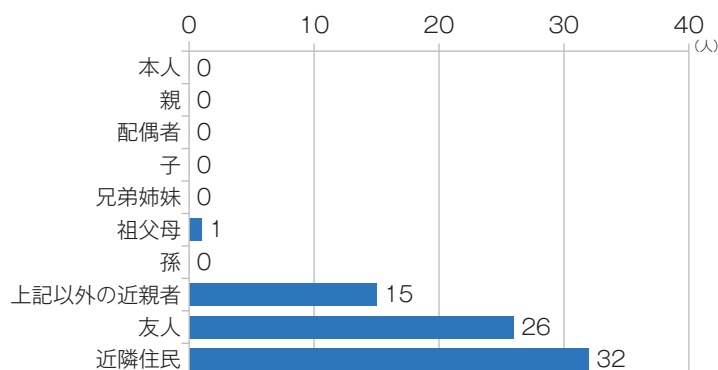


図5 負傷者の詳細（延べ人数、複数選択；N=58）

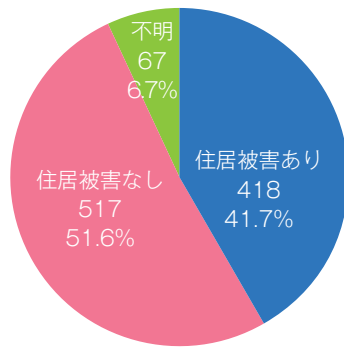


図6 住宅被害の有無
(延べ人数；N=1,002)

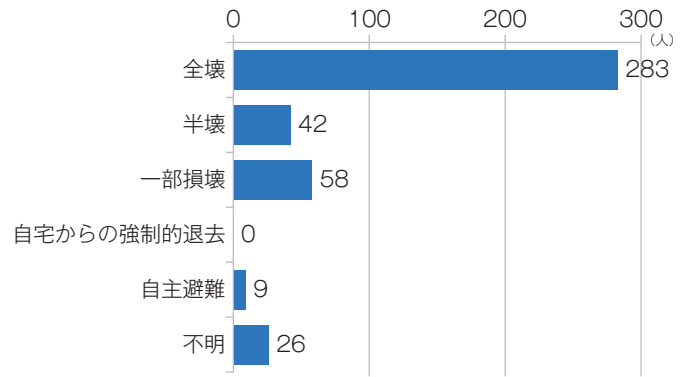


図7 住宅被害の詳細 (延べ人数；N=418)

c. 生活状況 (表4・図8・9)

表4 現在の居住環境 (延べ人数；N=1,002)

居住環境	人数
自宅	770
プレハブ仮設住宅	0
民間賃貸借上住宅	0
災害公営住宅	207
その他・不明	25

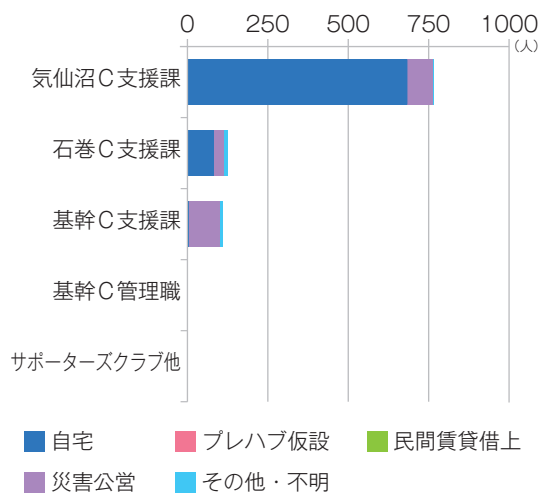


図8 担当課ごと現在の居住状況
(延べ人数；N=1,002)

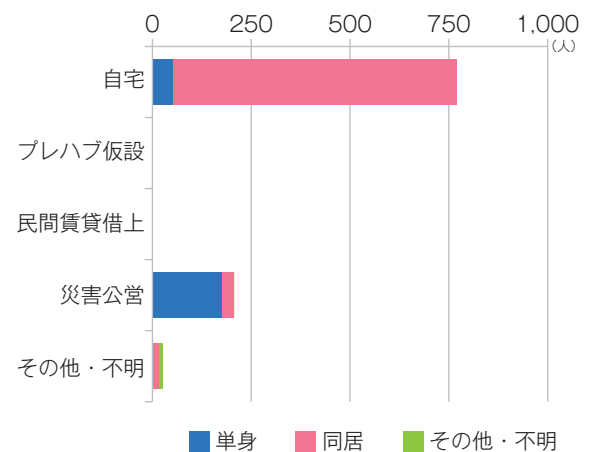


図9 居住環境と世帯の状況
(延べ人数；N=1,002)

d. 相談の背景（図10）

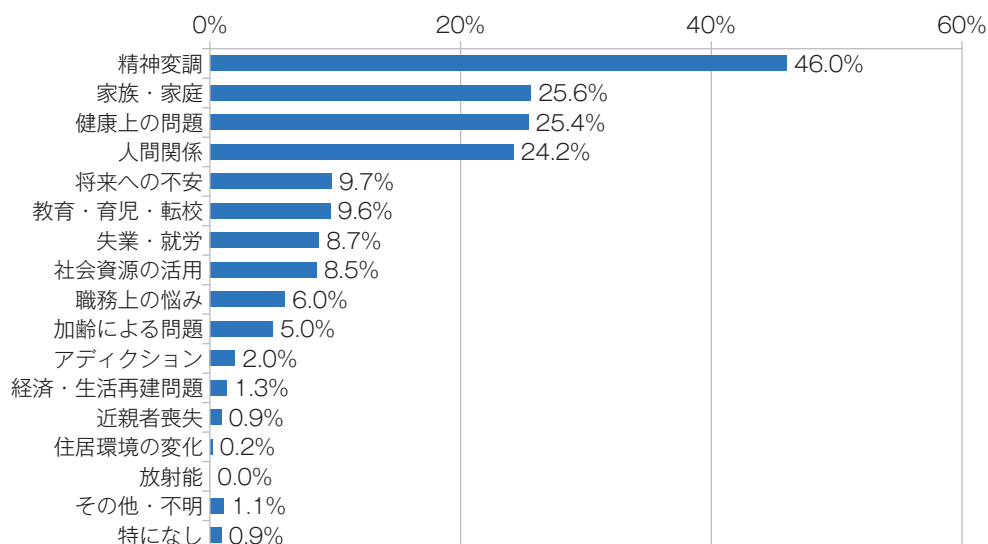


図10 相談の背景の有効回答数に対する割合（延べ人数、複数回答；N＝1,002）

e. 精神変調（図11）

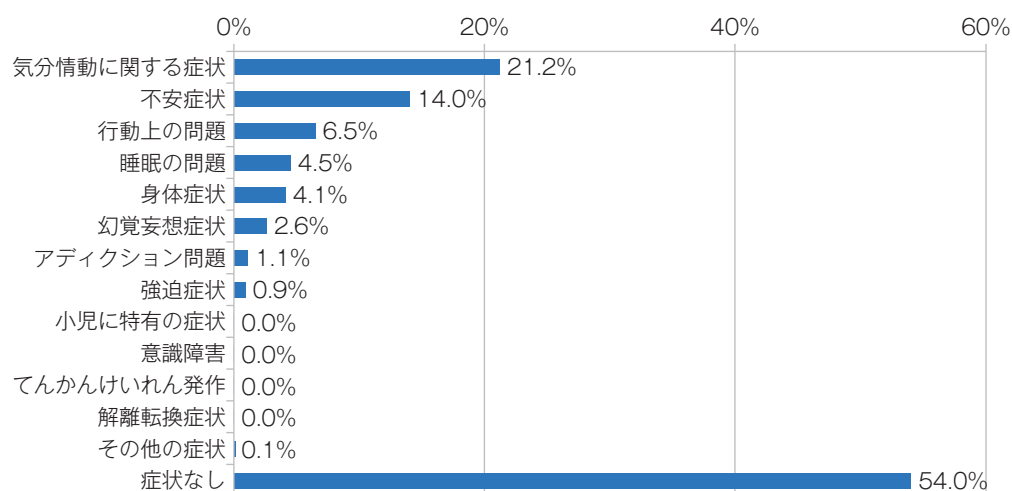


図11 精神変調内訳の有効回答数に対する割合（延べ人数、複数回答；N＝1,002）

f. 精神科受診歴の有無と病名、発症時期、現在の治療歴（表5・図12）

表5 受診歴と現在の治療状況（延べ人数；N＝1,002）

精神科受診歴		人数
受診歴あり	（治療継続中）	545
	（治療終結）	12
	（治療中断）	46
	（未治療）	0
	（治療状況不明）	26
受診歴なし		265
受診歴不明		108

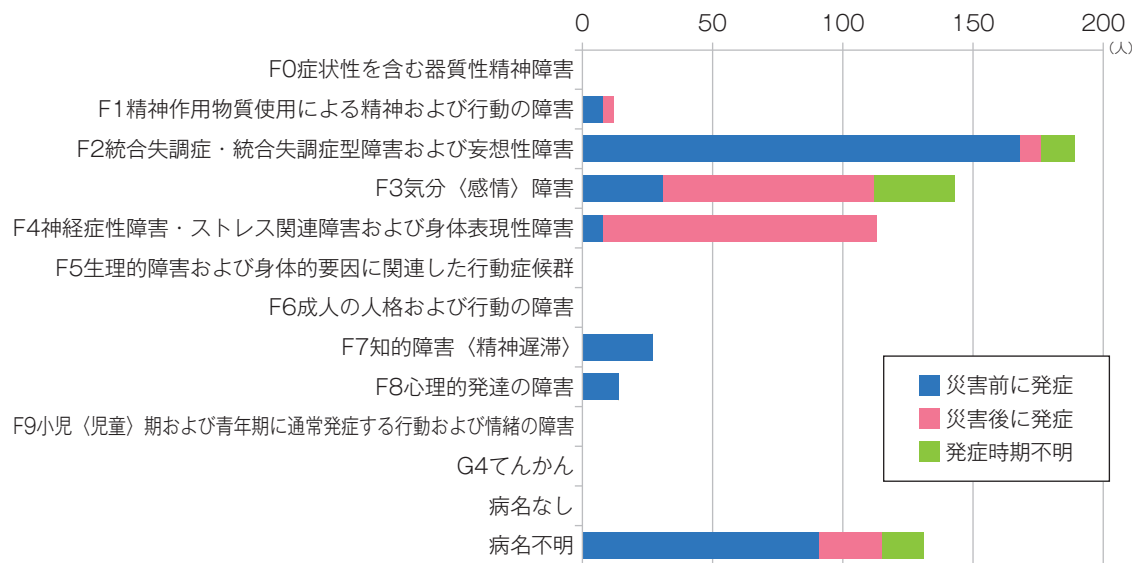


図12 受診歴あり・病名ありの方の疾患分類別人数（延べ人数、複数回答；N=629）

②支援内容について

a. 担当課ごと支援方法別件数（図13）

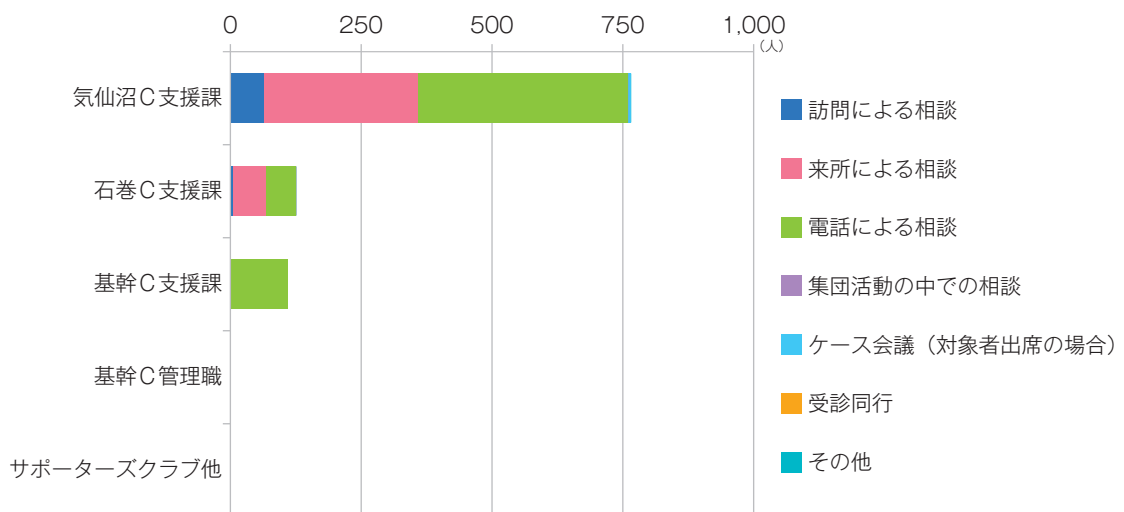


図13 担当課ごと支援方法別人数（延べ人数；N=1,002）

b. 相談者の内訳（図14）

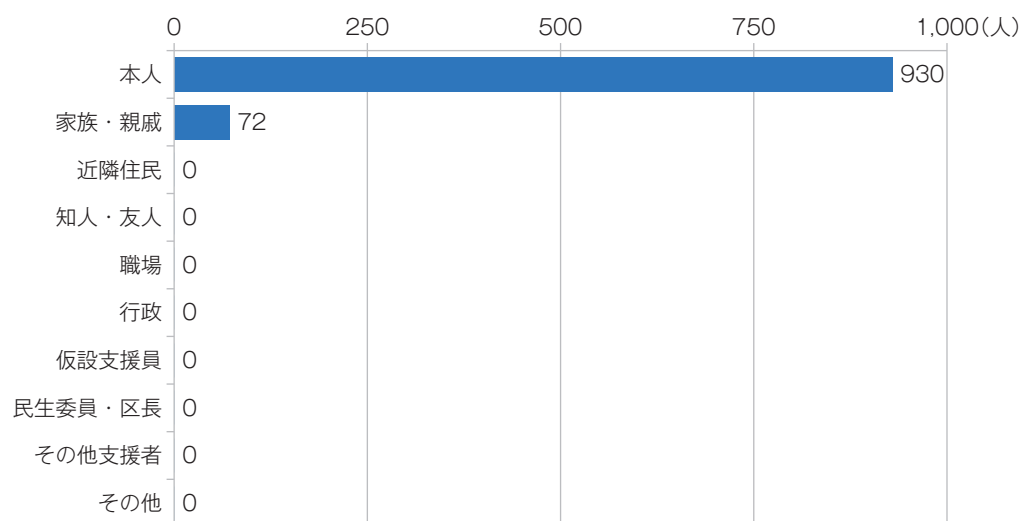


図14 相談者別人数（N=1,002）

c. 他機関による同席（図15）

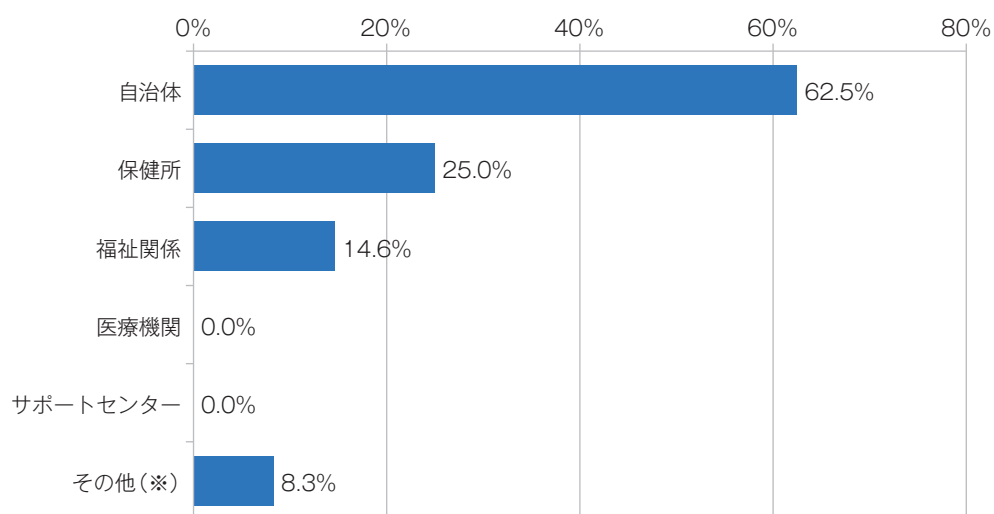


図15 同席他機関の有効回答数に対する割合（延べ人数、複数選択；N=48）

※「その他」は、教育機関、児童相談所、施設職員などを含む。

d. 担当課ごとの特徴（図16）

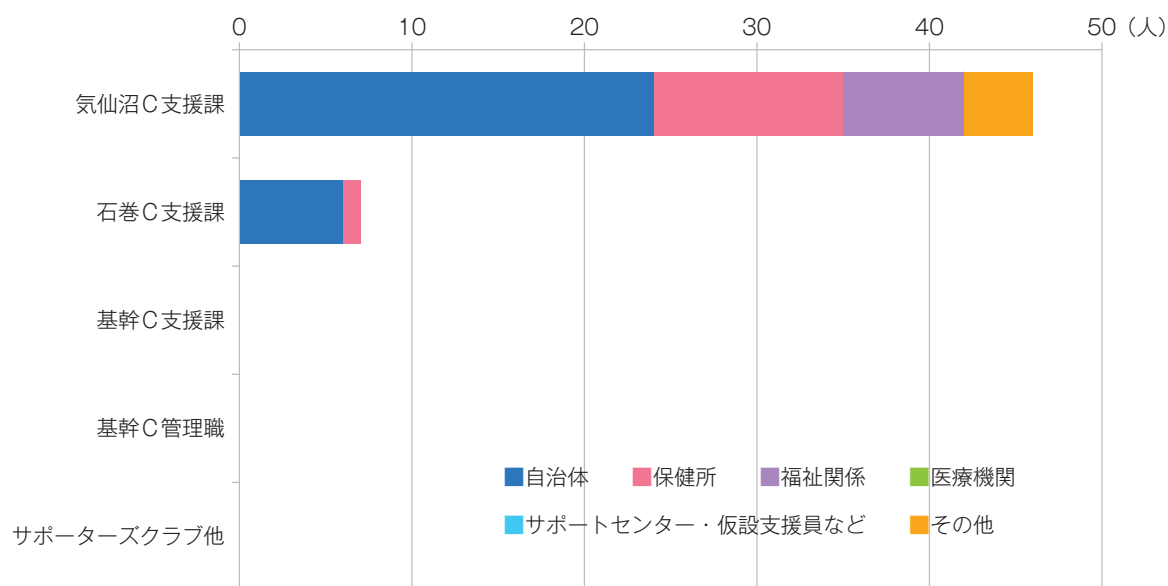


図16 担当課ごと 同席他機関の内訳（延べ人数、複数選択；N=48）

③支援終結状況について（表6・図17）

表6 転帰（N=1,002）

対応状況		人数
継続（延べ）	定期面談	477
	必要時面談	262
	その他	0
終了（実数）	状況改善	239
	他機関紹介	22
	支援拒否	2
	その他	0

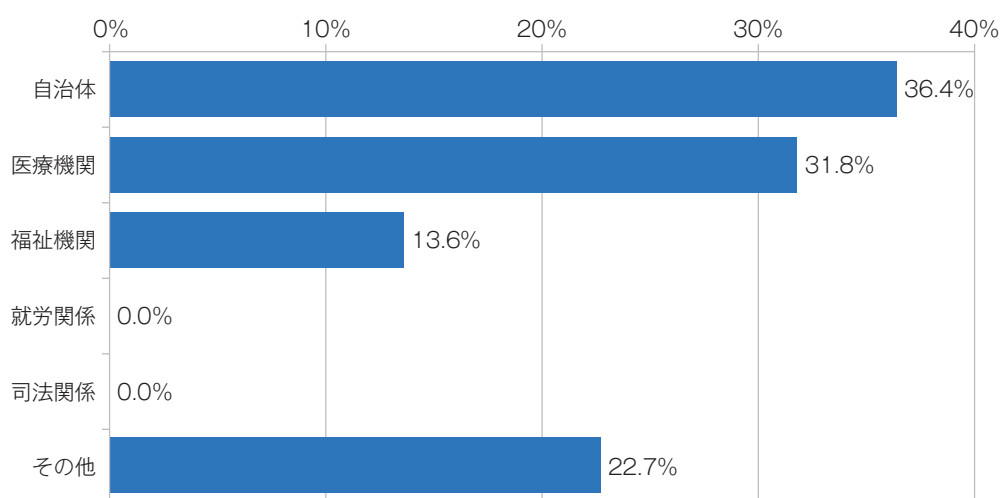


図17 他機関紹介内訳の有効回答数に対する割合（延べ人数、複数選択；N=22）

(2) 支援者支援

①支援実施状況

a. 支援件数（表7）

表7 支援者支援実施状況（延べ件数；N=147）

支援内容	件数	対象者数
訪問・面談後の報告	0	0
専門的立場からの指導・助言	87	184
地域の課題	0	0
職場のメンタルケア	0	0
ケース会議（対象者欠席の場合）	3	9
心の相談窓口の開設	0	0
健診支援	39	275
事務作業の支援	0	0
その他（PFA研修※1、支援スキル研修※2、事業運営協力など）	18	535
計	147	1,003

※1 ※2 2020年度までは人材育成事業として計上した。

b. 専門的立場からの指導・助言の内容（表8）

表8 専門的立場からの指導・助言の詳細
（延べ件数、複数選択；N=87）

専門的立場からの指導・助言詳細	件数
アルコール問題	0
ギャンブル問題	0
薬物問題	0
うつ	7
複雑性悲嘆	1
PTSD	7
虐待	10
その他	83
計	108

表8の「その他 88件」の内訳と割合を図18に示す。

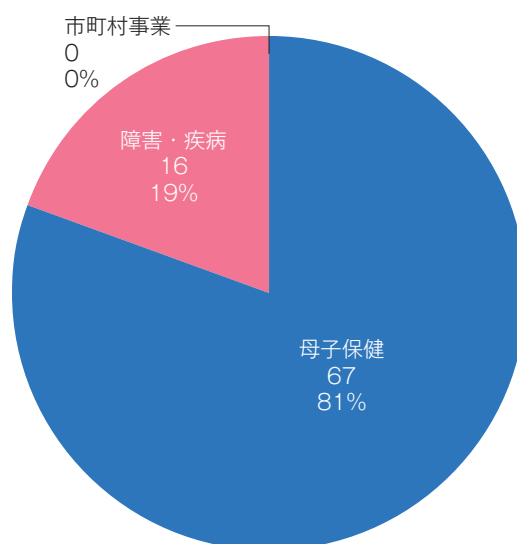


図18 専門的立場からの指導・助言「その他」 (N=83)

c. 支援対象者（図19）

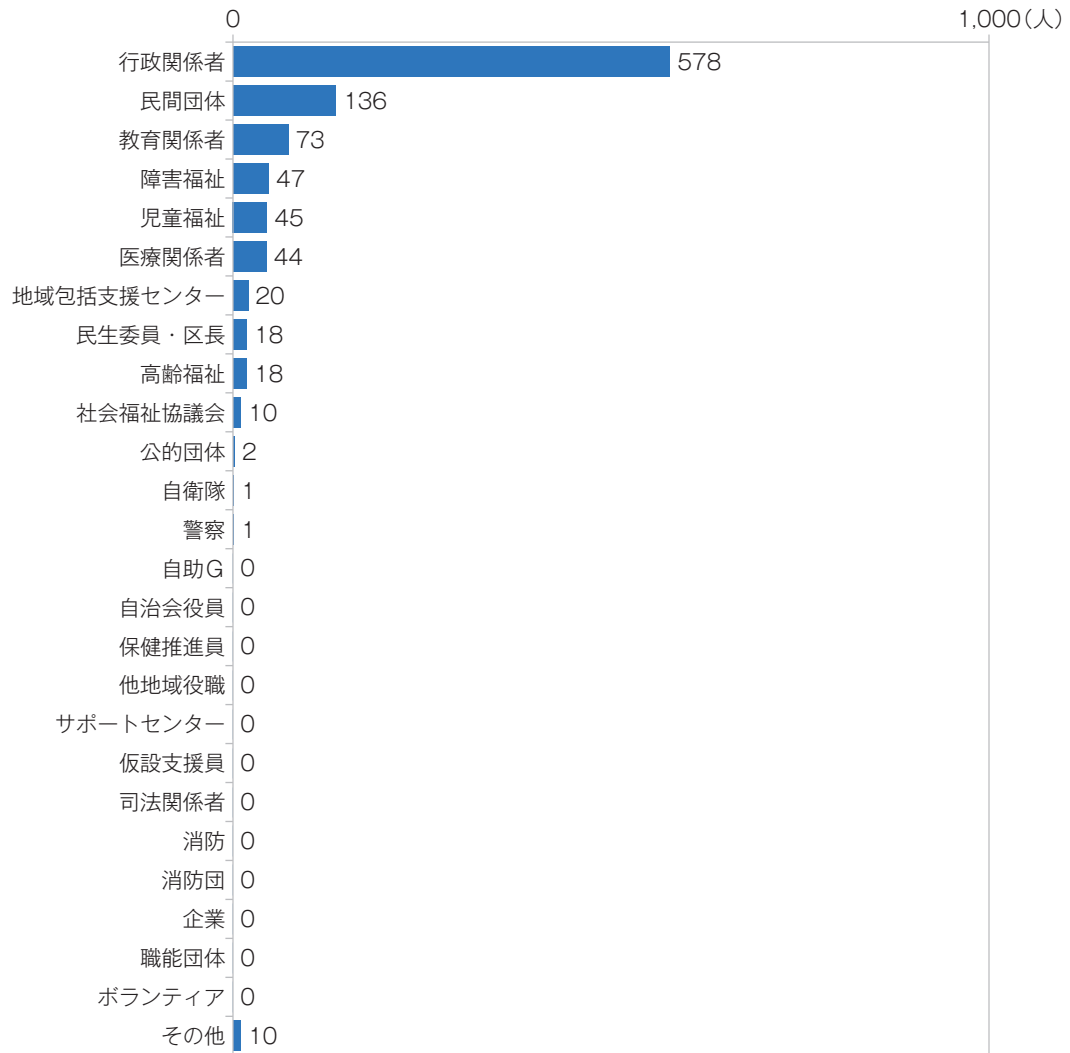


図19 支援対象者詳細（延べ人数；N=1,003）

②担当課ごと支援者支援の実施内訳（図20）

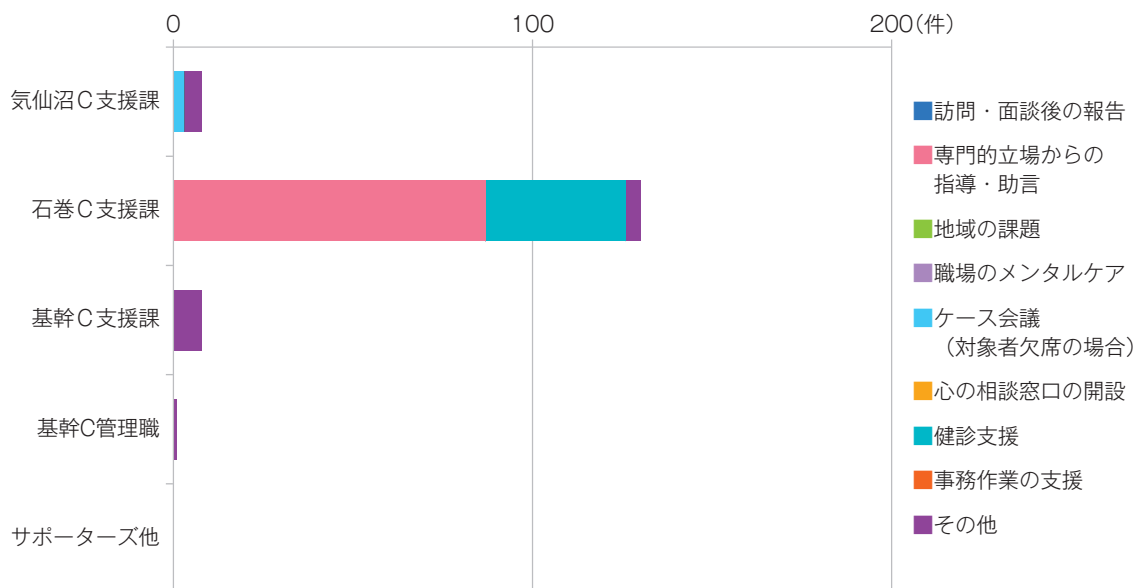


図20 担当課ごと支援者支援実施状況（延べ件数、複数選択；N=147）

③担当課ごと専門的立場からの助言指導の内訳（図21）

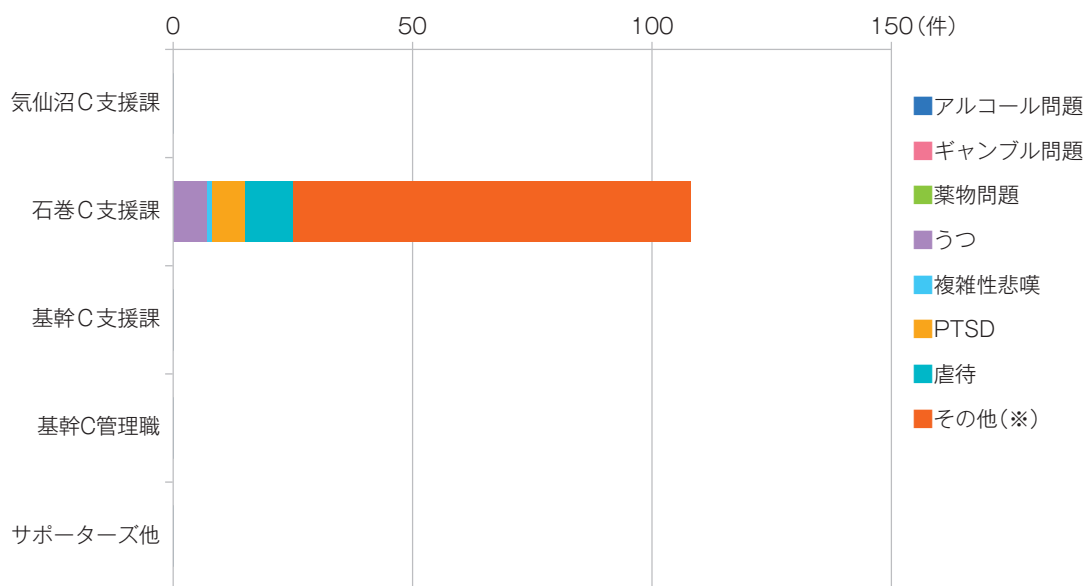


図21 担当課ごと専門的立場からの指導助言の詳細（延べ件数、複数選択；N=87）

※「その他」の詳細については図18を参照

（3）普及啓発

①普及啓発研修（表9）

表9 普及啓発研修詳細（N=18）

	回数	参加者数
震災後の心の反応	0	0
精神疾患について	0	0
話を聞く場合の基本的技術（傾聴、遺族対応など）	4	122
アディクション問題（アルコール問題など）について	2	139
震災が子どもにもたらす影響	0	0
ストレスと心のケア・セルフケアについて	11	203
体の健康について	0	0
職場のメンタルヘルスについて	0	0
被災地の状況と当センター活動について	1	100

②調査研究・学会発表など（表10）

表10 調査研究

実施年	活動月	担当者	調査研究名	詳 細
2024年	6月	福地 成	論文掲載「児童・青年期におけるトラウマケア」	トラウマティック・ストレス第22巻に論文を掲載した。
2024年	6月	福地 成	ポスター演題「東日本大震災後に出産した母親の抑うつとその子どもの情緒や行動の問題に関する縦断的研究結果」	第120回日本精神神経学会学術総会（2024年6月20日～22日、会場：札幌市産業振興センター技能訓練棟） ポスター演題「東日本大震災後に出産した母親の抑うつとその子どもの情緒や行動の問題に関する縦断的研究結果」の発表を行った。
2024年	6月	福地 成	精神疾患を抱える家族の中で育つ子どもへの対応	第120回日本精神神経学会学術総会（2024年6月20日～22日、会場：札幌市産業振興センター産業振興棟） 一般シンポジウム86『小児期逆境体験の中長期的影響と支援を再考する』において、『精神疾患を抱える家族の中で育つ子どもへの対応』の発表を行った。
2024年	6月	福地 成	東日本大震災から得られた知見：みちのく子どもコホートより一親の精神健康や養育と子どもの発達に関連―「保護者のメンタルヘルスと子どもの情緒・行動の問題の関連について」	第71回日本小児保健協会学術集会（2024年6月21日～23日、会場：ロイトン札幌） シンポジウム8『東日本大震災から得られた知見：みちのく子どもコホートより一親の精神健康や養育と子どもの発達に関連―』において、『保護者のメンタルヘルスと子どもの情緒・行動の問題の関連について』の発表を行った。
2024年	7月	福地 成	うつに至る小児期逆境体験	第21回日本うつ病学会総会（2024年7月12日～13日、会場：大阪国際交流センター） シンポジウム10において、『うつに至る小児期逆境体験』の発表を行った。
2024年	7月	片柳 光昭	第29回SST全国経験交流ワークショップ分科会「東日本大震災の被災地域における心のケアと予防的見地～自然災害後の我が街、我が暮らしの回復と支援のために～」	気仙沼地域センターでの勤務で経験した若者への支援の状況と気仙沼管内精神保健福祉医療連絡会議のワーキングで実施した高校生への普及啓発活動を中心に、外部組織からの中長期支援の経過を報告した。
2024年	9月	福地 成	論文掲載「災害後の子どものメンタルヘルスについて」	こころの健康シリーズIX 現代の災害とメンタルヘルスに論文を掲載した。
2024年	9月	福地 成	災害対策委員会企画として「子どものための心理的応急処置（Psychological First Aid for Children）研修」を実施	第42回日本小児心身医学会学術集会（2024年9月20日～22日、会場：国立オリンピック記念青少年総合センター） 災害対策委員会企画において、『子どものための心理的応急処置（Psychological First Aid for Children）研修』を行った。
2025年	2月	福地 成	論文掲載「子どものための心理的応急処置（Psychological First Aid for Children）の勘どころ」	子どもの心とからだ第33巻に論文を掲載した。
2025年	2月	福地 成	論文掲載「大規模災害後のコミュニティ支援ニーズアセスメント：宮城県災害メンタルヘルスケアセンターの活動から学ぶ」	精神神経学日本版英語翻訳版第124巻に論文を掲載した。
2025年	3月	福地 成	小児期逆境体験としての「災害」	第43回日本社会精神医学会（2025年3月13日～14日、会場：浜松町コンベンションホール） シンポジウム2『小児期逆境体験（ACEs）の中長期的影響とその支援』において、『小児期逆境体験としての「災害」』の発表を行った。
2025年	3月	福地 成	ポスター演題「日本における自然災害後の子どもに対する心理教育の文献的レビュー」	第43回日本社会精神医学会（2025年3月13日～14日、会場：浜松町コンベンションホール） ポスター演題『災害とメンタルヘルス/その他2』において、『日本における自然災害後の子どもに対する心理教育の文献的レビュー』の発表を行った。

③サロン活動（表11）

表11 サロン活動（N=19）

	各センター地域支援課			その他	合計
	気仙沼	石巻	基幹		
主催・共催サロン	5	0	11	0	16
他機関サロンへの協力	3	0	0	0	3